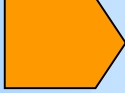




# 2022年3月期 決算説明

証券コード：6908  
2022年5月10日  
イリソ電子工業株式会社



-  **I. 2022年3月期 連結決算概要**
- II. 2023年3月期 連結決算見通しと  
中期経営計画進捗状況**
- III. トピックス**

# 1. 2021年度 業績のポイント (2021年4月～2022年3月)

- **売上高** : パワートレイン分野を中心としたオートモーティブ(車載)市場、並びにインダストリアル市場牽引により、対前年比+20.1%。
- **営業利益** : 操業度の向上、原価低減、固定費削減を推進したが、原材料と輸送費高騰、コロナ影響下におけるサプライチェーン混乱等を十分吸収できず、対前年比+55.9%に留まる。

単位：百万円

	2020年度	2021年度	前年比
売上高	36,520	43,863	+7,343 +20.1%
営業利益	2,900	4,520	+1,620 +55.9%
営業利益率	7.9%	10.3%	+2.4pts

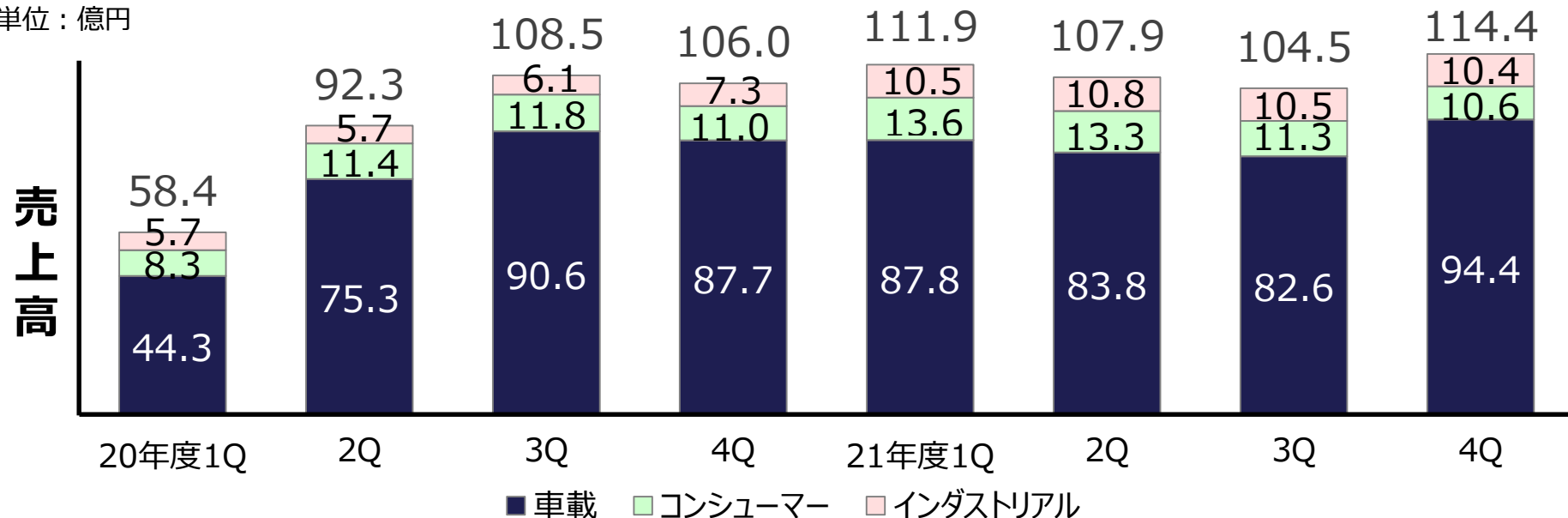
## 2. 2021年度 連結決算の概要

単位：百万円

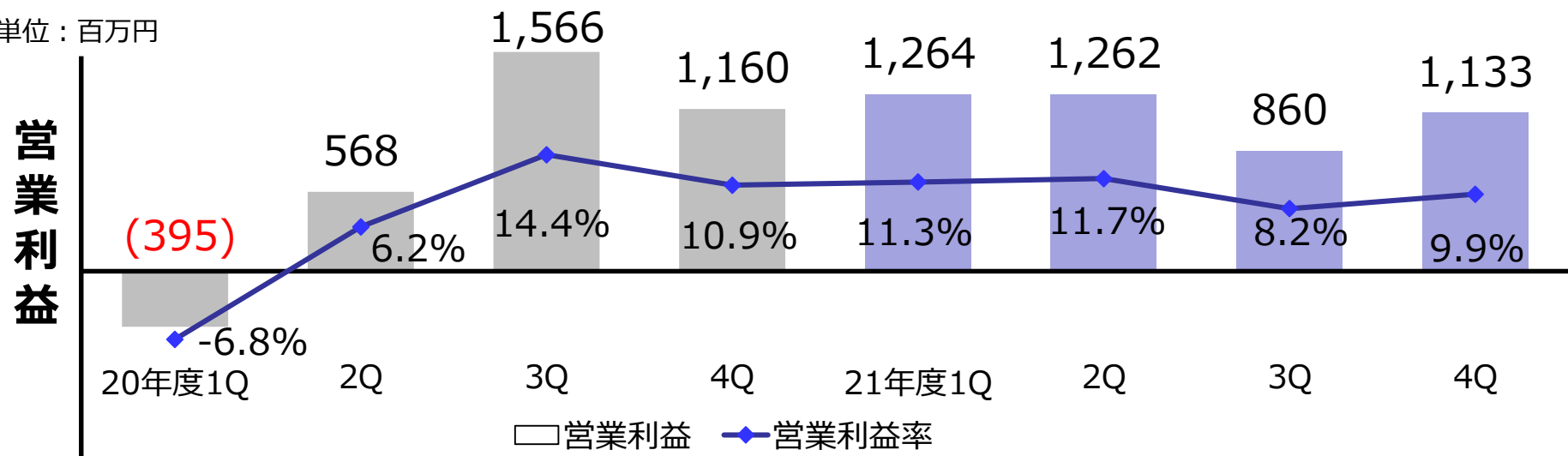
	20年度 累計	21年度 累計	増減額	増減率
売上高	36,520	43,863	+7,343	+20.1%
車載	29,786	34,756	+4,969	+16.7%
コンシューマー	4,256	4,884	+628	+14.8%
インダストリアル	2,477	4,223	+1,745	+70.5%
売上原価	25,317	29,520	+4,202	+16.6%
売上原価率	69.3%	67.3%		-2.0pts
販売管理費	8,302	9,822	+1,520	+18.3%
販売管理費率	22.7%	22.4%		-0.3pts
営業利益	2,900	4,520	+1,620	+55.9%
営業利益率	7.9%	10.3%		+2.4pts
税引前利益	2,788	4,570	+1,781	+63.9%
当期純利益	2,141	3,913	+1,771	+82.7%
EPS	90.89円	166.22円		
為替レート	ドル：106.17円	112.86円	+6.69円	+6.3%
期中平均	ユーロ：123.73円	131.01円	+7.28円	+5.9%
	元：15.63円	17.59円	+1.96円	+12.5%

# 3. 四半期別売上高・営業利益推移

単位：億円



単位：百万円



# 4. 地域別・製品別売上高

## ■ 地域別

単位：百万円

	20年度		21年度		前年比
	売上高	構成比	売上高	構成比	
日本	8,457	23.2%	10,833	24.7%	+2,376
中華・韓国圏	11,463	31.4%	14,583	33.2%	+3,119
アメリカ	5,001	13.7%	5,465	12.5%	+463
欧州	6,667	18.3%	7,179	16.4%	+512
ASEAN	4,929	13.5%	5,801	13.2%	+871
<b>合計</b>	<b>36,520</b>	<b>100.0%</b>	<b>43,863</b>	<b>100.0%</b>	<b>7,343</b>
海外比率		76.8%		75.3%	

### 日本

・パワートレイン分野とインダストリアル市場が好調

### 中華・韓国圏

・パワートレイン分野が好調

## ■ 製品別

単位：百万円

	20年度		21年度		前年比
	売上高	構成比	売上高	構成比	
BtoB	17,060	46.7%	19,524	44.5%	+2,464
FPC	8,036	22.0%	9,164	20.9%	+1,128
車載IF	8,407	23.0%	11,109	25.3%	+2,701
ピンヘッダー	1,197	3.3%	1,765	4.0%	+565
その他	1,818	5.0%	2,298	5.2%	+480
<b>合計</b>	<b>36,520</b>	<b>100.0%</b>	<b>43,863</b>	<b>100.0%</b>	<b>7,343</b>

### BtoB

・車載市場の回復により増加

### 車載IF

・パワートレイン分野が牽引

# 5. 対前年比 売上・営業利益変動

単位：百万円

	売上高	営業利益	営業 利益率	要因
20年度 実績	36,520	+2,900	7.9%	
為替影響	+2,373	+180		
物量増減	+4,970	+2,490		
材料費増		△1,270		原材料の価格高騰他
輸送費増		△650		価格高騰並びにSC混乱コスト増
固定費増		△970		減価償却費増+570M¥、他
成長投資		△170		ERP刷新、新分野開拓
原価低減他		+2,010		
変動要因 計	+7,343	+1,620		
21年度 実績	43,863	+4,520	10.3%	

## 6. 連結貸借対照表の状況

単位：百万円

	20年度	21年度	前年末比	備考
流動資産	35,209	40,436	+5,227	
現金及び預金	14,260	14,066	△193	
売掛債権	11,177	12,889	+1,711	
棚卸資産	7,935	11,592	+3,657	BCPによる積増し他
固定資産	28,732	32,716	+3,984	機械装置+13.5億
資産合計	63,941	73,153	+9,211	為替影響約+57億
負債合計	9,210	11,376	+2,165	
買掛債務	3,675	4,504	+829	
借入金	398	410	+11	
純資産合計	54,731	61,776	+7,045	
株主資本計	52,176	54,660	+2,483	
自己資本比率	85.0%	83.8%	-1.2pts	



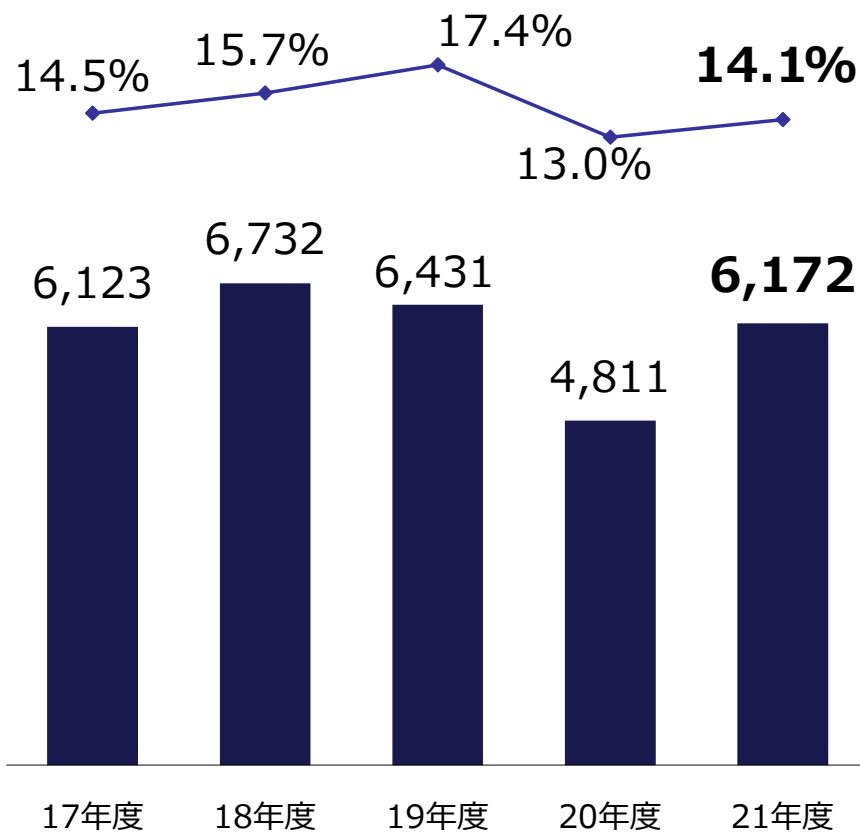
# 7. 連結キャッシュフローの状況

単位：百万円

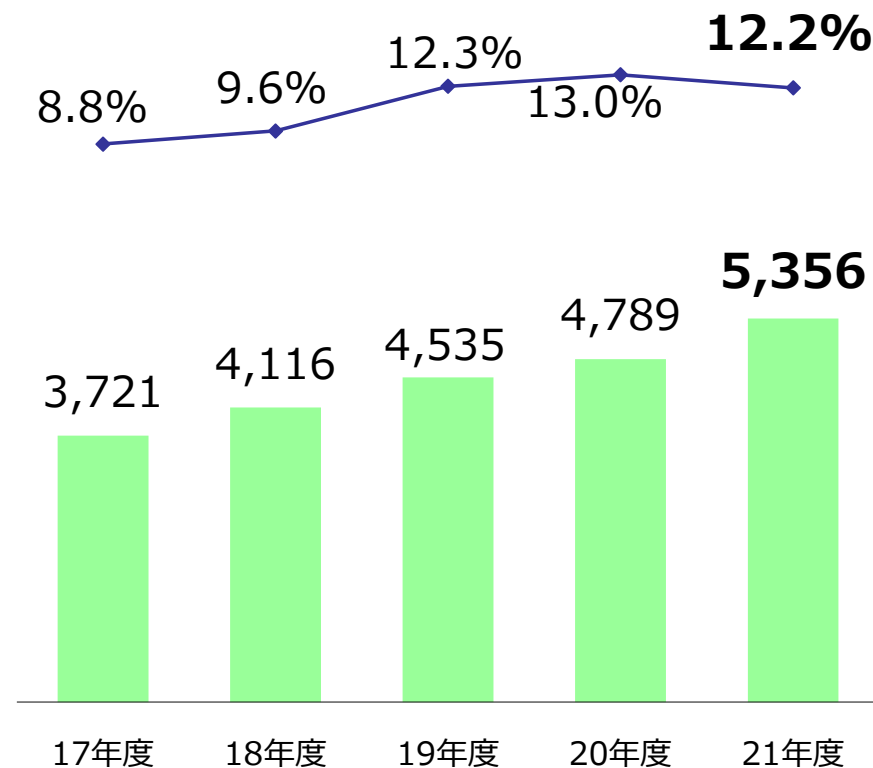
	20年度	21年度	増減
営業キャッシュフローマージン率	17.1%	15.3%	-1.8pt
営業キャッシュフロー	6,234	6,691	+457
当期純利益	2,788	4,570	+1,781
減価償却費	4,789	5,356	+566
運転資金増減(△は増加)	△1,131	△3,183	△2,052
投資キャッシュフロー	△4,881	△6,248	△1,367
有形固定資産	△4,760	△5,438	△677
フリーキャッシュフロー	1,352	442	△909
財務キャッシュフロー	△1,379	△1,611	△231
配当金	△1,184	△1,183	0
現金及び現金同等物期末残	14,260	14,066	△193

# 8. 設備投資・減価償却

単位：百万円  
※%は売上高に対する比率



設備投資

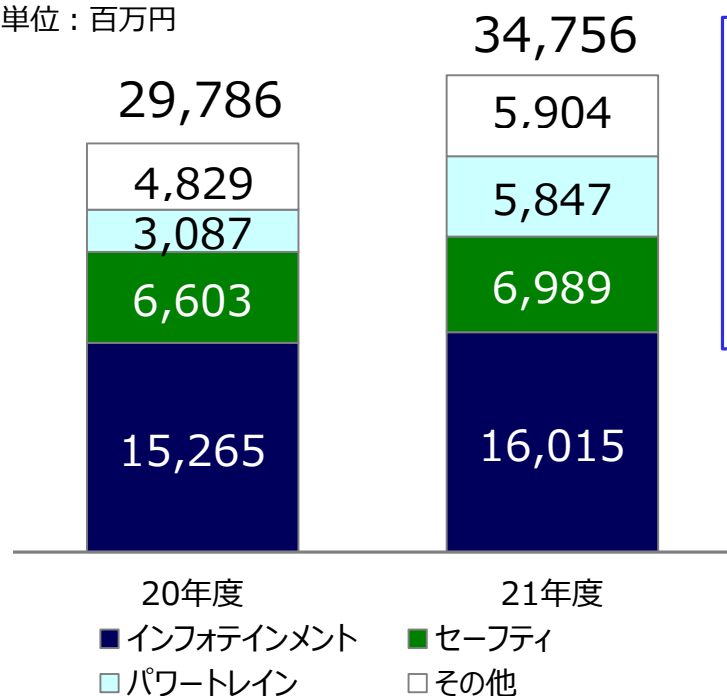


減価償却

# 9. 市場別売上 オートモーティブ(車載)

## ■ 前年比+4,969百万円 (+16.7%)

単位：百万円



- ・前年度の新型コロナによる低迷から回復
- ・特にパワートレイン分野が牽引
- ・半導体不足の中、パワートレイン分野の貢献もあり、  
グローバル生産台数の前年比-2%減を上回る17%増
- ・半導体不足の影響は当初計画に対し約-30億円

### インフォテインメント

- ・半導体不足による調整局面は10月を底にして4Qより回復中

### セーフティ

- ・シェアが高いミリ波レーダー向けを中心に、半導体不足による生産台数減少の影響があったが、4Qは回復

### パワートレイン

- ・電動車の増加を背景に、前年比90%増と好調
- ・特にバッテリー関連向けが牽引
- ・四半期での最高売上を7Q連続更新中

### その他

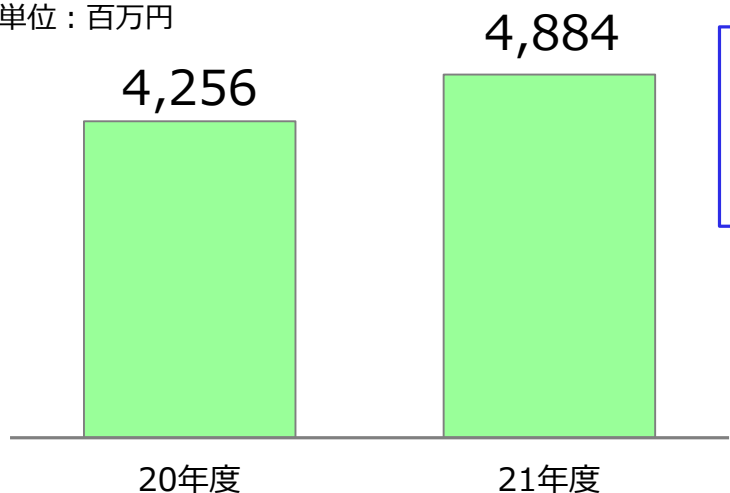
- ・車載電子シフター、2輪ECU向けが増加

	20年度		21年度			
	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	
インフォテインメント	4,377	4,221	3,965	3,731	4,097	
セーフティ	1,839	1,754	1,590	1,690	1,954	
パワートレイン	1,072	1,260	1,343	1,516	1,727	
その他	1,427	1,542	1,478	1,322	1,560	
合計	8,766	8,778	8,376	8,261	9,339	

# 10. 市場別売上 コンシューマー、インダストリアル

## ■コンシューマー市場：前年比+628百万円 (+14.8%)

単位：百万円

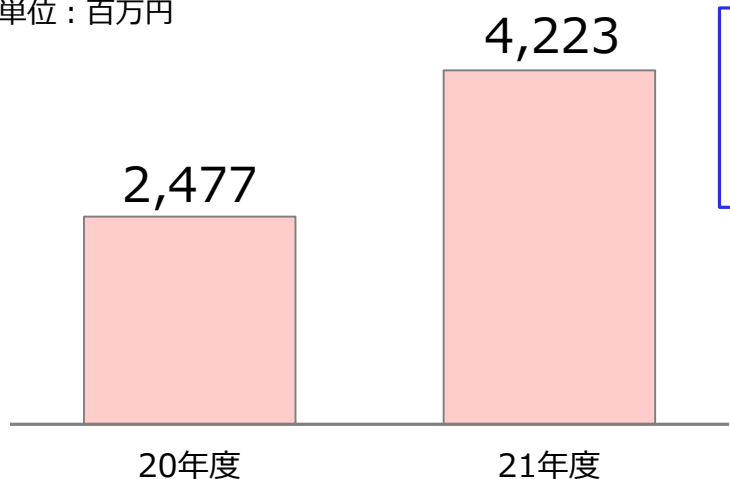


- ・ゲーム機、OA機器向けが牽引
- ・3Q、4Qにゲーム機向け、テレビ向けで半導体不足影響あり

	20年度		21年度		
	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
コンシューマー	1,104	1,361	1,331	1,131	1,060

## ■インダストリアル市場：前年比+1,745百万円 (+70.5%)

単位：百万円

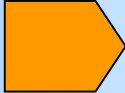


- ・中国の設備投資需要でPLCやサーボアンプ向けといったFA機器向けが好調で高水準を継続
- ・前期末からスタートした5G基地局向けも貢献

	20年度		21年度		
	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
インダストリアル	605	729	1,047	1,083	1,053



I. 2022年3月期 連結決算概要

 II. 2023年3月期 連結決算見通しと  
中期経営計画進捗状況

III. トピックス

# 1. 2022年度 業績予想

単位：百万円

	21年度		22年度		前年比	
	上期	通期	上期	通期	対上期	対通期
売上高	21,978	43,863	24,000	51,500	+2,021 +9.2%	+7,636 +17.4%
売上原価率	65.3%	67.3%	68.5%	67.0%	+3.2pts	-0.3pts
営業利益	2,526	4,520	2,480	6,160	△46 -1.8%	+1,639 +36.3%
営業利益率	11.5%	10.3%	10.3%	12.0%	-1.2pts	+1.7pts
税引前利益	2,365	4,570	2,400	6,000	+34	+1,429
当期純利益	2,168	3,913	1,800	4,500	△368	+586
EPS	92.03円	166.22円	76.52円	191.30円		
為替レート 期中平均	ドル：110.18円 ユーロ：130.97円 元：17.04円	112.86円 131.01円 17.59円	130.00円 135.00円 20.00円	130.00円 135.00円 20.00円	+19.82円 +4.03円 +2.96円	+17.14円 +3.99円 +2.41円
設備投資	-	6,172	-	9,000	-	+2,027
減価償却	-	5,356	-	6,300	-	+933

## 2. 2022年度 市場別売上高計画

単位：百万円

	20年度		21年度		22年度		
	売上高	構成比	売上高	構成比	売上高	構成比	前年比
車載計	29,786	81.6%	34,756	79.2%	41,400	80.4%	+19.7%
インフォテインメント	15,265	41.8%	16,015	36.5%	17,700	34.4%	+10.5%
セーフティ	6,603	18.1%	6,989	15.9%	8,100	15.7%	+15.9%
<b>パワートレイン</b>	3,087	8.5%	5,847	13.3%	9,300	18.1%	+59.0%
その他	4,830	13.2%	5,904	13.5%	6,500	12.6%	+10.1%
コンシューマー	4,256	11.7%	4,884	11.1%	5,600	10.9%	+14.7%
インダストリアル	2,477	6.8%	4,223	9.6%	4,300	8.3%	+1.8%
合計	36,520	100.0%	43,863	100.0%	51,500	100.0%	+17.4%

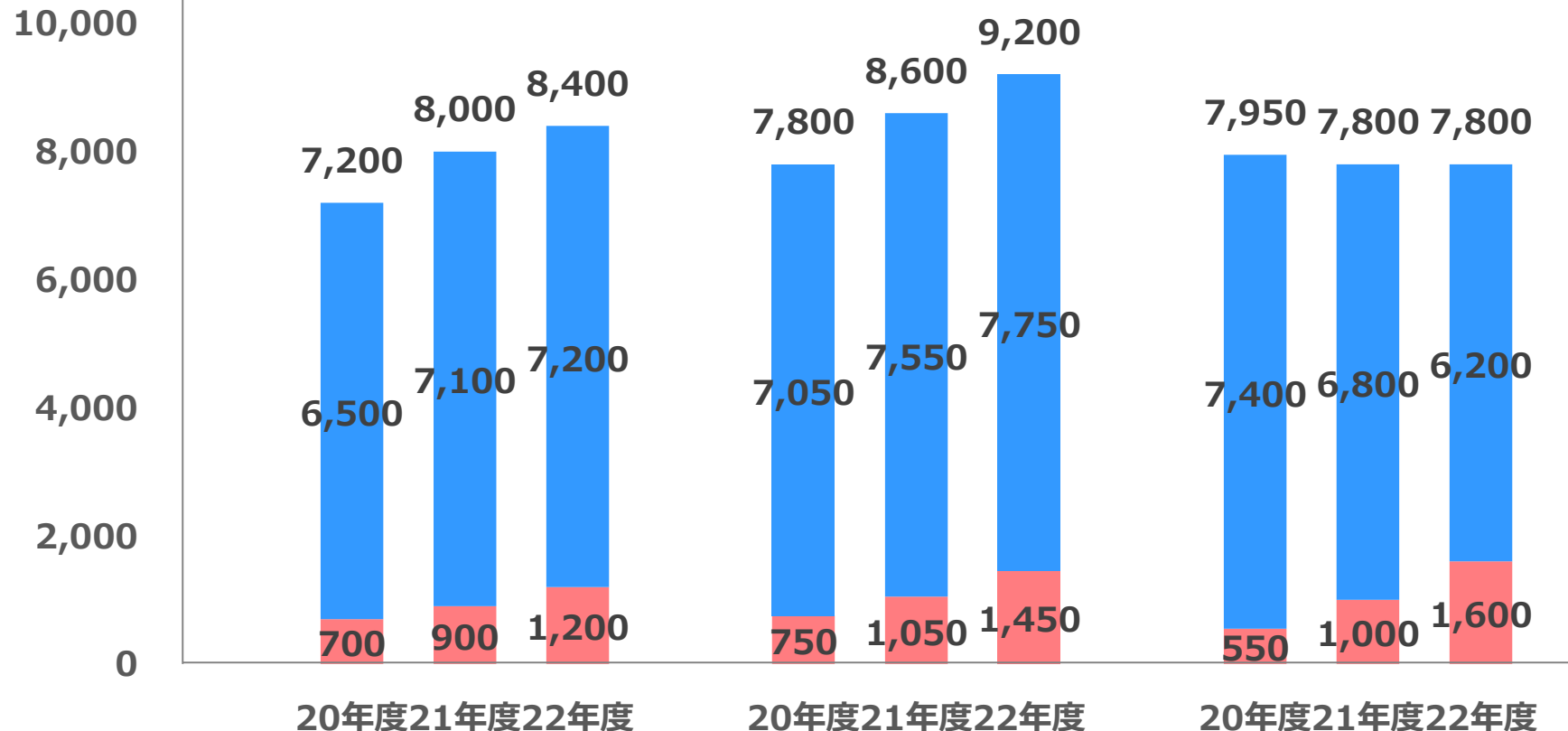
**パワートレイン分野は中期経営計画で掲げた目標を1年前倒して達成する計画**

# 3. 世界自動車生産台数見直し 当社推定



- ・xEV車は堅調
- ・一方でxEV車以外は低迷。22年度のグローバル生産台数は前年度並みの想定

単位：万台



中計(20年8月発表)

見直し中計(21年5月発表)

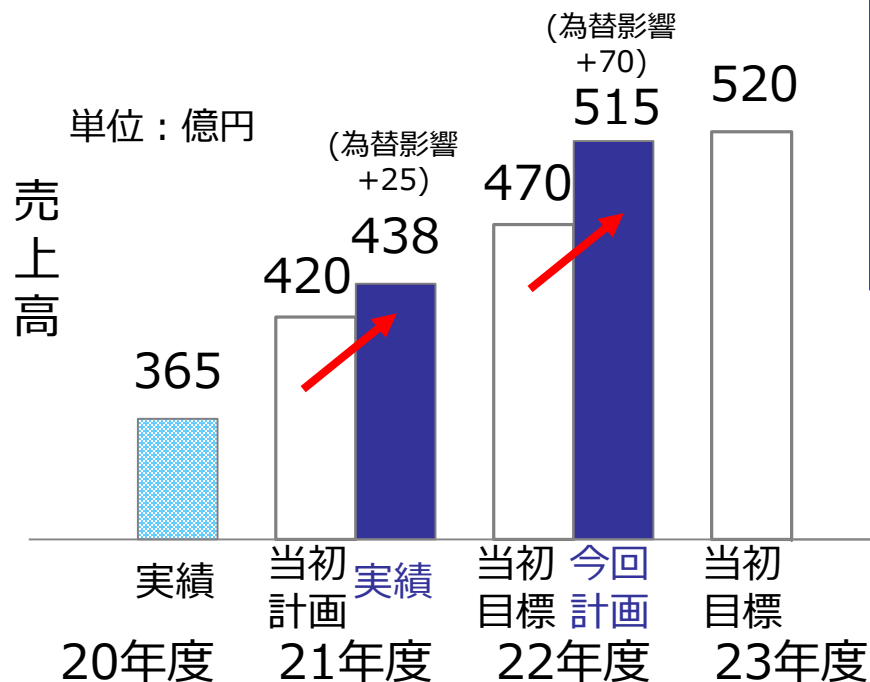
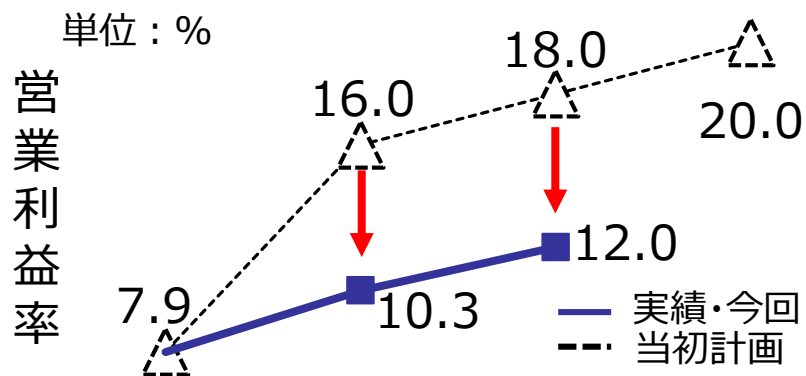
今回計画

■ xEV車(EV、FCV、PHV、HEV、HV)    ■ xEV車以外

(富士キメラ総研・銀行・証券等各社のレポートを参考に当社作成)



# 4. 21~23年度中期経営計画の進捗



- 自動車生産は、コロナ影響並びに地政学リスクにより、低迷
- 売上高は、自動車市場低迷するもパワートレイン分野拡大と為替影響により、上振れ
- 営業利益率は、操業度減、原材料並びに輸送費高騰影響等により未達

為替前提	20年度	中期経営計画	21年度実績	22年度期今回計画
USD	106.17円	105.00円	112.86円	130.00円
EUR	123.73円	127.00円	131.01円	135.00円
元	15.63円	16.00円	17.59円	20.00円

# 5. 環境変化に対する対応

変化	項目	追加対応
市場の加速化	xEV化の加速	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新興メーカー含めたOEM、Tier1への活動の刈り取りとバッテリー、駆動系への更なる深耕</li> <li>・パワートレイン分野生産能力増強、秋田工場建設</li> </ul>
	ADAS搭載率向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高速伝送対応コネクタの拡販(10143シリーズ、車載カメラソリューション)</li> </ul>
	ロボット活用、自動化の加速	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロボット組立適合コネクタのグローバルでの拡販強化</li> </ul>
	5Gの普及	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高速伝送対応コネクタの拡販(10143シリーズ)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・材料不足</li> <li>・価格高騰</li> <li>・操業停止</li> <li>・SC混乱</li> </ul>	原材料、輸送費価格高騰を凌駕するコスト競争力の強化	<b>①収益構造の改善</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・価格政策の見直し、ロングテール対策等粗利率改善</li> <li>・主力製品の原価低減プロジェクト推進</li> <li>・工場稼働率、工程不良縮減等による生産性向上、トータル物流費改革、汎用品の生産・在庫・発送のコントロール一元化</li> </ul>
	サプライチェーン・マネジメントの強化	<b>②生産体制の安定化、地産地消化の推進</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産変動に備えた主要材料の枠取り確保</li> <li>・汎用品を中心としたマルチ生産体制の構築</li> </ul> <b>③ERP刷新によるSCMの可視化</b>

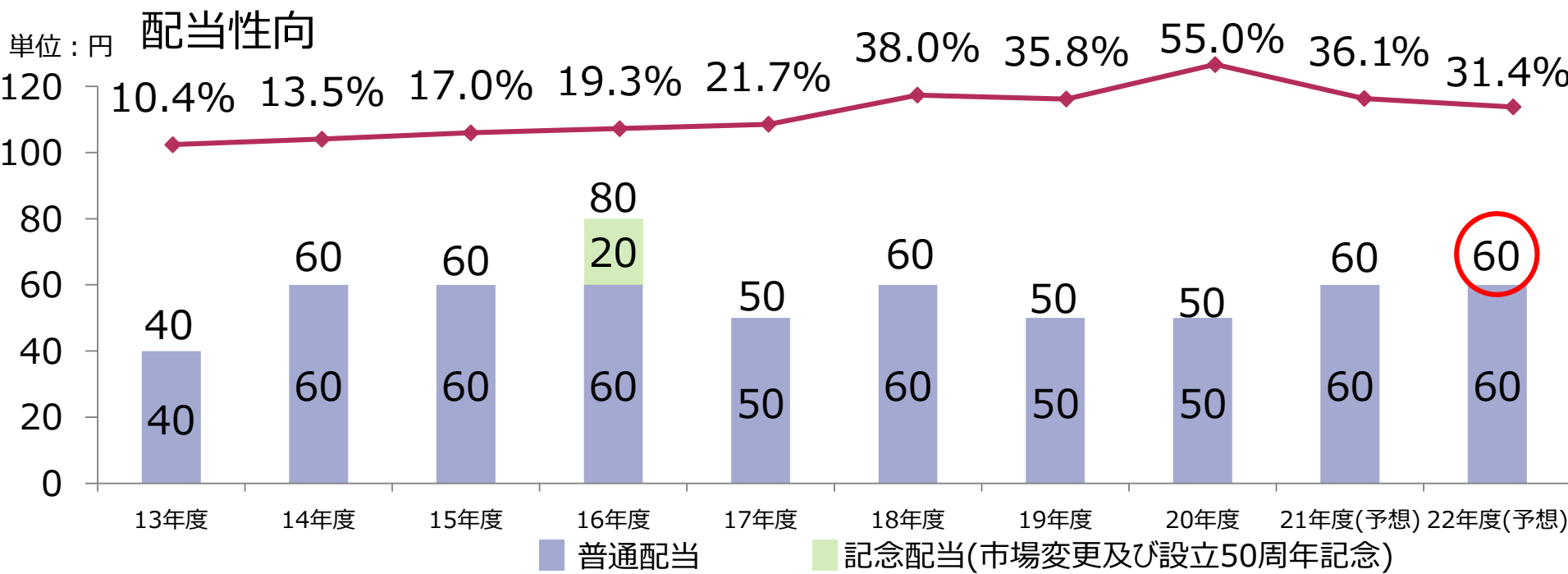


# 6. 株主還元



- ・配当予想:21年度60円、22年度60円配当を予定
- ・配当方針:安定配当並びに配当性向30%以上
- ・今後、長期ビジョンであるROE10%超を実現するため、配当性向の見直し、自己株式の取得等、成長のための投資資金確保とのバランスを考慮し、資本政策の見直しを積極的に推進して参ります。

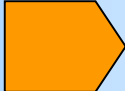
※2017年9月に1:2の株式分割を行いました。  
16年度以前は2分割前の金額を記載しております。





**I. 2022年3月期 連結決算概要**

**II. 2023年3月期 連結決算見通しと  
中期経営計画進捗状況**

 **III. トピックス**

## ■ 日本での新工場建設(2025年春に操業開始予定)

- ・日本でのパワートレイン分野向けを中心とした需要増とBCP、地産地消の観点から日本国内2拠点目となる新工場を秋田県横手市に建設し、国内生産を拡大。
- ・ロボット活用組立、搬送の無人化、システム化等、より一層のスマートファクトリー化を推進。
- ・将来的には150億円の売上に対応する生産能力を計画。
- ・2022年4月1日に子会社化した成形金型の製造を行うSGD社(現・イリソエンジニアリング社)と、秋田工場の活用により、
  - ・部品工程の内製化率向上によるコスト削減
  - ・海外生産拠点から日本への輸送費削減
  - ・製造工程のリードタイムの短縮

の実現も目指す

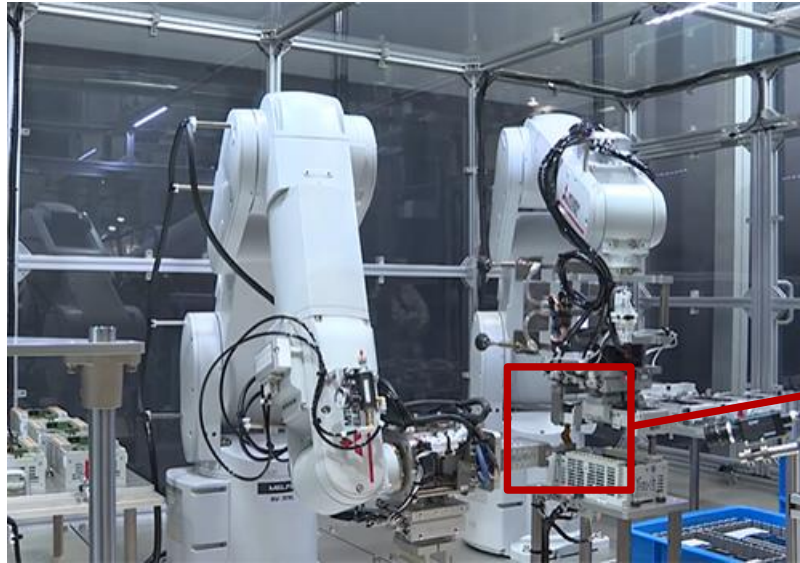
新工場概要

名称	秋田工場(仮称)
所在地	秋田県横手市(横手第二工業団地内)
敷地面積	約58,000m <sup>2</sup>
延床面積	約22,000m <sup>2</sup>
投資予定金額	約50億円(土地、建物、設備) (23.3期～)
着工予定	2023年
操業開始予定	2025年春

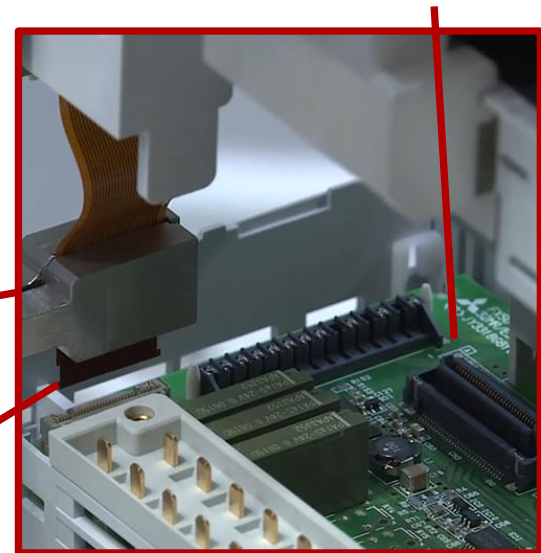
秋田県、横手市との立地協定式



- 「ロボット組立適合コネクタ」が2021年度日本機械学会優秀製品賞を受賞
  - ・「ロボット組立適合コネクタ」とは、イリソが今まで培ってきた「フローティングコネクタ」、「Auto I-Lock」、「2点接触コネクタ」の3つのテクノロジーを活かした製品群で、ロボット組立によって組立品質、生産タクトの安定化を実現し、省人化や運用コストの削減に貢献可能。
  - ・製造業における労働人口の減少が懸念される中、「ロボット組立適合コネクタ」を構成する3つのテクノロジーが、各種製品の組立自動化を推進しロボティクス分野の発展に大きく貢献するものと評価され、受賞。



フローティング(可動)コネクタ



Auto I-Lockコネクタ

#### ■ 中国拠点工場(上海・南通)の状況

- ・ロックダウンにより中国拠点の上海・南通の2工場に影響あり

	上海工場	南通工場
状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロックダウンの対象地域</li> <li>・4/28から一部稼働再開</li> <li>・出社可能人数は徐々に増加中</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロックダウンの対象地域外</li> <li>・出社人数が制限され、稼働率低下の期間あったが、操業は継続</li> </ul>
稼働停止期間	4/1～4/27	—
全面稼働時期	未定	—
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物流面での規制あり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物流面での規制はあり</li> <li>・部品工程も担っており、一部他地域の工場の製品生産にも影響あり</li> </ul>

会社名	イリソ電子工業株式会社
事業内容	各種コネクタの製造・販売
設立年月	1966年12月
社員数	3,137名(2022年3月31日現在)
資本金	5,640百万円(2022年3月31日現在)
本社	神奈川県横浜市港北区新横浜2-13-8
営業拠点	<p>国内</p> <p>海外</p> <p>本社、福島県、茨城県、愛知県、大阪府 シンガポール、香港、アメリカ、ドイツ、タイ、韓国 中国(上海、大連、天津、蘇州、深圳、重慶)、マレーシア、台湾、 インド</p>
研究開発	本社(イリソテクノロジーパーク)、 川崎(生産技術センター)、岩手県、上海R&Dセンター
工場	茨城県、中国(上海、南通)、フィリピン(マニラ)、 ベトナム(ハイズオン)



## コネクタの種類

### 基板対基板コネクタ (BtoBコネクタ)

プリント基板の接続用に開発されたコネクタの総称でボード・ツー・ボードコネクタ(ボードtoボードコネクタ)とも呼ばれる。垂直接続、平行(スタッキング)接続、水平接続など組み合わせで、さまざまな接続が可能となる。B to B (ビー・ツー・ビー)は、当社の登録商標として市場で広く浸透している。

### FPC/FFCコネクタ

FPC基板(Flexible printed circuits)やFFCケーブル(Flexible flat cable)の接続用に開発されたコネクタの総称。コネクタの挿入時に力を加えずにロック可能なZIF(Zero insertion Force)タイプ、挿入したときに力が発生するNON-ZIFタイプがある。

### IFコネクタ

IFとは、インターフェイスの略で、機器間の信号の接続を行うコネクタのことで、I/O(インプット/アウトプット)コネクタとも呼ばれる。カーナビ、PCなどさまざまな機器の側面(裏・表面)に装着され、機器への電源供給、音声・映像信号データなどの入出力を行う。

### ピンヘッダー

線材をカット加工した“ピン(電導体)”をハウジング(樹脂材でできた絶縁体)で支えたプラグ(オス側)コネクタの基本形であり、さまざまな分野・機器の内部接続(基板間接続)に使用されている。横から見ると、生け花の花止め“けんざん”のように見えるのが特長。メス側はソケットと呼ばれる。

この資料に記載されております業績の予想数値につきましては、本資料の発表日現在で得られた入手可能な資料に基づいて作成したものであり、今後の様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

当社といたしましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めて参りますが、本資料記載の見通しのみにより依拠してご判断されることはお控え下さるようお願いいたします。

なお、本資料の利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。